

第5回： 生物膜法による水処理

開催日： 1984年7月11日～12日 / 会場： 「自動車会館」東京都

開催趣旨： 公共用水域の水質管理に果たす都市部の公共下水道整備や工場排水処理の役割は大きく、それなりに成果が挙げられている。しかし、地方都市や農山村における生活雑排水、あるいは小規模事業場排水の制御は十分でなく、これらによる汚濁負荷の削減は急務であろう。今後の水環境制御を進めるうえで最も適切な処理方法でありかつ省資源、省エネルギーである生物膜法についてセミナーを開催します。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 生物膜法の基本課題と周辺問題（合田健／国公害研）
- 水処理における生物膜法の意義（小島貞男／㈱日水コン）
- 生物膜法の浄化機構と設計手法（渡辺義公／宮崎大・工）
- 水道における生物膜法（佐藤壯夫／大阪府）
- 処理機能の特性比較（大森英昭／(財)日環整備教育セ）
- 嫌気・好気ろ床による生活排水処理（北尾高嶺／豊橋技科大・工）
- 小規模生活排水処理における生物膜法の位置（須藤隆一／国公害研）
- ひも状接触材を応用した生物膜法（檜村勉／日本産業機械㈱）
- 波状接触材を応用した生物膜法（麻生昌則／三菱樹脂㈱）
- 回転円板法の特徴（蓑毛修／回転板研）
- ハニコームチューブを応用した生物膜法（小林光廣／新日本コア㈱）
- 生物膜法に用いる接触材について（高崎昇一／筒中プラスチック工業㈱）